会議結果のお知らせ

1　開催した会議の名称

令和８年度第１回大分県立図書館協議会

2　開催日時

令和８年９月４日（金）１４：００～１５：４０

3　開催場所

大分県立図書館　３階　特別会議室

4　出席者

（１）委員（１０名中７名出席）

佐藤晃洋 委員長、後藤礼次郎 副委員長、佐藤真里 委員、久住真和 委員、
川原恒太郎 委員、甲斐榮 委員、工藤邦彦 委員

（２）事務局

衛藤館長、浜田副館長、梅田副館長兼サービス課長、衛藤総務企画課長、
首藤学校・地域支援課長、増本郷土資料室長、及び総括担当

5　公開・非公開の別

公開

6　傍聴人数

０人

7　議事等

○議事

（１）令和７年度事業実績について

（２）令和７年度運営の状況に関する評価（重点目標の達成状況）について

○報告

（１）令和８年度図書館地区別研修（九州・沖縄地区）の開催について

8　主な審議内容及び会議録の概要

議事（1）令和７年度事業実績について

○事務局から以下の資料により説明した。

資料１　基本方針及び令和７年度重点目標

資料（別冊）　要覧　2026（令和 8）年度版

○委員からの意見

・職員研修、市町村立図書館の支援で配信している専門的な研修の動画を、専門職員がいない施設等の、小さな図書室の職員がユーチューブなどで視聴できるような支援もお願いしたい。

（補足説明）例えば介護の研修施設に、介護とか福祉関係の図書 DVD、VHS テープなどの資料があり、一般の方に貸し出しなどしているが、資料類の選別・分類、区分の仕方など、専門的な知識を持った者がいないため整理されていない。司書にとっては常識的なことでも、専門外の職員にとっては難しい部分があるので、研修を動画配信したら役立つのかなと考えた。資料の整理の仕方など、社会教育のごく狭い部分になるが、図書館の専門的な知識が社会に役立つ機会になると思い提案した。

○事務局コメント

・職員研修の動画配信は、普段参加できない職員も研修が受けられるということで、大変好評をいただいている。著作権などの問題もあり、無制限に広げるのは難しいが、例えば、学校に関係のある研修の動画を、市町村を通じて学校に提供するなどの方法で広げていくことも検討したい。

議事（2）令和７年度運営の状況に関する評価（重点目標の達成状況）について

○事務局から以下の資料により説明した。

資料２　大分県立図書館運営の状況に関する評価

○委員からの質疑

評価（1）「県立ならではの資料収集・保存・提供の推進」について

①重複本など１万冊の除籍について、どういう基準で除籍をされているか、また除籍された本はどのように活用されているのか。

②選書について、例えば、大分でこんな本が売れてます、東京でこんな本が売れてます、と言ったものも押さえた上でリストアップしているのか。

③図書館にはデジタルの専門家は配置されているか。

評価（５）「子どもが本に親しむ機会の充実」について

①選書について、定評のあるものを中心にしているとのことだが、子どもや保護者のニーズ把握や、意見を聞くという機会はあるか。

評価（７）「社会教育の推進による多様な学びを支える環境づくり」について

①県立図書館に生涯学習社会教育の部署ができ、そこで行われる研修講座がこれだけ充実してきていると、図書館で行う以前の研修や講座とは当然違ってきていると思う。県立図書館で行うからこそという部分をさらに伸ばし、県立図書館の利用者増加につなげるという方向性について伺いたい。

○事務局回答

評価（１）「県立ならではの資料収集・保存・提供の推進」について

①県立図書館として、従来は資料をできるだけ保存するという方針だったが、そのままでは令和６年に収蔵限界を超えるという試算が出たため除籍の取組を始めた。令和元年頃から積極的に除籍を行い、副本や同じ内容の本があるものを中心に除籍している。除籍する場合は、他に所蔵している館が県内にあるか、国立国会図書館で所蔵しているか、デジタルで提供されているかなども調べている。

除籍後の本は、学校や公共施設、図書館などに年に２回譲渡。個人に対しては、遠方の方が来館できず公平性が保てないため行っていない。

②トーハンなど、ネットに出ているベストセラーや、各新聞の書評、書評誌などをチェックしている。また、利用者からのリクエストやレファレンスなども踏まえ検討している。

③県立図書館にデジタル専門の職員の配置はない。図書館システムの保守を富士通に委託しており、そちらのＳＥによるメンテナンスを行っている。

評価（５）「子どもが本に親しむ機会の充実」について

①保護者や子どものニーズを把握するための機会は設けていないが、利用者の声は日報などで記録・情報共有しており、それを選書にフィードバックしている。予算の縛りもあるが、子どもたちにはなるべく良い本を読んでほしい。子ども室の場合は、スタンダード絵本も新しい状態で読んでもらえるよう、かなりの予算を本の買い替えに充てている。新刊と買い替え、さらに流行のものを取り入れながら、良いもの、長く寄り添えるものをお母さん、子どもに選んでいただける状態を作るよう努めている。

評価（７）「社会教育の推進による多様な学びを支える環境づくり」について

①公民館職員研修や社会教育行政関係者職員研修の時に、司書が選定した関連図書を研修会場に展示すると、研修参加者に大変興味を持っていただいている。これが県立図書館で研修を行うことの効果の一つで、今後も研修と図書をつなぐ取組を進めたい。

○委員意見

評価（１）「県立ならではの資料収集・保存・提供の推進」について

・一般的なものは住民に近い市町村立図書館、貴重な資料や専門的な資料は県立図書館というような棲み分けをするとよいのでは。

・電子書籍がどういうものなのか、県民に対する周知が課題で、コンテンツそのものに触れる機会が必要になってくるので、引き続き電子書籍の購入を継続してもらいたい。

評価（３）「県民の調査研究・課題解決の支援」について

・レファレンスについては、利用者がどう満足されたのかという結果を、何らかの形で公表することが必要。AI で調べる方法もある中で、図書館のレファレンスサービスを今後どうしていくのかは図書館として大きな課題。県立図書館の豊富な資料に基づいたレファレンスは今後も継続していただきたい。

・探究学習との兼ね合いで、高校生や大学生にレファレンスやパスファインダーを説明した時に、その辺がよく理解できてないと感じる。探究学習的な要素が強まったときに頼りになるのが県立図書館のレファレンス（情報資源）というアナウンスはしているが、ユーチューブ動画などでの発信でないと難しいのかと思う。ショート動画で授業の振り返りをする時代なので、従来のやり方では届かない部分が多いのかなと感じたところ。

評価（５）「子どもが本に親しむ機会の充実」について

・こども室に入った時の温かみはとても大事。委託するのではなく、県立図書館が直接運営するということを守っていただきたい。

評価（６）「県内図書館及び関係者への支援と連携」について

・スクールサービスデーについて、探究学習をどのように図書館で行うか、中学生、高校生、先生方へのアプローチを進めていただきたい。

・高校現場でも探究学習は継続しているが、AI に頼りきっているというのが現場

の実感で、年々その傾向が強まってきている。授業の予習や宿題ですらAIに頼りきり。現場では指導や思考力を伸ばすための授業や声かけ、学校図書館を利用してもらう活動や、図書館と学年の連携という企画はしているが、なかなか生徒の足は図書館に向かない。自分の課題をAIが解決してくれたかのような答えが出てしまい、考えようとしないのがとても困っている。現代人の大きな課題で、大人として、子どもを導くものとして考えていかねばならない。

評価項目外

・健康医療情報サービスについて、図書館に足を運びづらい人や不登校に対する配慮は課題解決型サービスの一つ。図書館での医療情報サービスの推進もお願いしたい。
・臼杵市の書店で、店員が野上八重子を知らなかったという経験をした。郷土の作家を知らない県民が徐々に増えてきていることに危機感を感じるので、企画として郷土の作家をアピールするのがいいのでは。
・大分県立図書館が進化している、変わってきていると感じるが、これをどのように発信していくかがとても重要。図書館側からできる限界も来ていると思うので、それをどのようにしていくのか、皆で考えなければいけないと思う。
・大分県図書館大会の梅澤先生の話を聞いて、子どもたちが不思議だな、なんだろうという気持ちで学びに向かう力を伸ばしていくこと、図書館として何ができるのかを子どもたちにしっかり伝えることが大事と感じた。

○事務局コメント

評価（3）「県民の調査研究・課題解決の支援」について

・評価指標のレファレンス件数について、昨年度までは本に関する以外のことを簡易として「簡易のものを除く」としていた。しかし、些細なことからでも、いろいろ話をしていると最終的にはレファレンスにつながることも多いということがわかったため、今回から全件数とさせていただいた。
・レファレンスでは本当に様々なことを聞かれている。最近は県外の方から自分の先祖調べの依頼が多く、対応に苦慮している。そういう場合は、例えば竹田のことであれば竹田市歴史文化館を紹介するようなサービスも行っている。レファレンスは非常に頑張っているし、受けた方の満足度も高いと思われるが、それが知られていない、広報が行き届いていないというところが課題。ホームページや共同データベースに情報をアップしており、また、調べ方については（公共図書館）パスファインダー（リンク集）にも上げているのでご覧いただきたい。

評価（６）「県内図書館及び関係者への支援と連携」について

・なんでも AI で調べる時代にあって、司書、図書館の役割とは何なのかというのは問題意識として非常に強く持っている。スクールサービスデーの様子を見ると、ご指摘いただくようにレファレンスがまず知られていない。ざっくりしたテーマを持つ生徒に司書への相談を勧め、そのテーマから掘り下げて本のリストを出してくれた、という体験してもらうと、レファレンスはこういうものだとか、自分ひとりでは調べられないことが調べられると実感できる。そういう PR が必要と考える。

（評価項目外）

・健康づくり情報コーナーについて、予算の許す限り新刊の追加を行っているところ。

・不登校支援について、以前、県の教育センターにあったポランの広場は、フリースクールなど不登校支援の受け皿が増えたため利用者数が大きく減少しており、連携しても効果が薄い。現在は、県の学校安全・安心支援課が取りまとめているフリースクールやセンター等にプログラムの案内を行っている。今後も引き続き支援をしていきたい。

・野上弥生子などの郷土の作家について、やはり作家の企画展は大事だと感じた。要覧 46 ページの「生誕 140 周年　野上弥生子」ということで、一般資料室の大分ギャラリーで企画展示を行うとともに、ホームページに大分の文学者に関するリストを掲載している。ただ、これらを見る人のうち、高校生がどれぐらいいるかというところは、情報発信の課題として認識している。

報告（１）について

〇事務局から以下の資料により説明した。

資料３　令和８年度図書館地区別研修（九州・沖縄地区）開催要項素案

〇委員からの質疑等

特になし